

## 分解と再構築：参考図書の電子化

### 項 潔

参考図書は、特定の分野に関する知識を集めた後、一定の方式に照らして配置し、読者が短時間で必要な情報を探ることができるものである。図書にはさまざまな種類があるが、参考図書は電子化に最も適している。なぜなら参考図書は、本来特定の資料を探すために設計されており、直線的に（1 ページ目から）閲覧するものではないからだ。このような「検索式」の使用方法は、コンピューターが最も得意とする。確かに多くの辞典や百科事典といった類の参考図書が、すでにインターネット上で、利用者が検索方式で使用できるように提供されている。

ただし、大多数の電子参考図書は本来の構造と目的に沿って設計されており、紙書籍の直線的な配列の制限から抜け出したものの、提供している機能はいまだに「ひとつの主題とひとつの見出し」というスタイルである。ウィキペディアのような新しい共同編集式の百科事典も、新たな機能は語彙にリンクが貼られているという点だけである。

我々は電子参考図書の潜在力はまだ十分に発揮されていないと考える。参考図書の見出しと見出しの間には、さまざまな人物や事柄にまつわる関係が隠されている。これらの関係は、従来の参考図書ではひとつひとつ明らかにすることは難しかった。しかし情報システムを使えば、迅速に掘り起こして再構築することが可能だ。例えば、事典には歴史上の人物の生没年と出身地が掲載されているが、これを利用して同じ時代、あるいは同じ地域で生まれた人物を調べることができる。もし官職に関する資料があれば、誰が同時期にどんな役職に就いていたか、あるいは同じ役職にどんな人物が就いたことがあるのかを知ることができる。こういったことが可能になれば、参考図書の内容と機能面に顕著な変化を生み出し、学術研究を助ける利器となるだろう。

このような内に秘められた情報を十分に活用するためには、参考図書の見出しにあらかじめ前処理をしておかなければならない。本報告で我々はいくつかの異なる性質の例を取り上げ、いかにして既存の参考図書の見出しを分解し、その中の人物や事柄といった情報を確認した後に構造化された資料としてまとめたかを説明する。この基礎の上に、我々は豊富で迅速な参考図書の検索分析システムを再構築するのである。

**項潔 (Jieh Hsiang)**

台湾大学情報工学系特別教授、中央研究院情報科学研究所の研究員を務めるとともに、台湾大学デジタル・アーカイブ研究発展センターおよび台湾大学出版センターで主任を務める。2002～08年には台湾大学図書館長を務め、在任中は台湾大学校史館、台湾大学博物館群、台湾大学人文庫、原住民族図書情報センターを創設。『台湾大学史』第一部の編者も務めた。デジタル・アーカイブおよびその関連研究に20年あまり携わり、30件以上の大型デジタルデータベースと20件以上の研究ツールの構築に従事してきた。なかでも台湾歴史電子図書館 (Taiwan History Digital Library : THDL) は、すでに清代台湾の地域研究に不可欠なツールとなっている。近年では研究の重心を人文学研究におけるデジタル史料活用のための方法論、ツール、システムへと移している。